

第31週の発生動向(2004/7/26~2004/8/1)

- 1 咽頭結膜熱については、減少傾向にあります。先週に引き続き弘前、五所川原、上十三保健所管内で**警報**が出されています。
- 2 ヘルパンギーナについては、先週に引き続き、むつ保健所管内で**警報**が出されています。八戸保健所及び上十三保健所管内を除いて、患者数の多い状態又は増加傾向が認められていることから、今後も注意が必要です。
- 3 水痘については、むつ保健所管内を除いて増加傾向にあるため、注意が必要です。

第31週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	0	0.00	
(60) 咽頭結膜熱	3	0.38	6	0.60	3	0.33	1	0.20	1	0.17		0.00	14	0.33	±0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.00	10	1.00	1	0.11		0.00	3	0.50		0.00	14	0.33	-9
(62) 感染性胃腸炎	19	2.38	7	0.70	2	0.22	1	0.20	7	1.17	10	2.50	46	1.10	±0
(63) 水痘	15	1.88	11	1.10	8	0.89	5	1.00	5	0.83		0.00	44	1.05	21
(64) 手足口病		0.00	1	0.10		0.00		0.00		0.00	1	0.25	2	0.05	-6
(65) 伝染性紅斑	3	0.38		0.00		0.00		0.00	1	0.17		0.00	4	0.10	-6
(66) 突発性発疹	3	0.38	6	0.60	6	0.67		0.00	9	1.50	5	1.25	29	0.69	4
(67) 百日咳		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	0	0.00	
(68) 風疹		0.00		0.00	1	0.11		0.00		0.00		0.00	1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ	39	4.88	42	4.20	3	0.33	16	3.20	6	1.00	42	10.50	148	3.52	35
(70) 麻疹(成人を除く)		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	0	0.00	
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.50		0.00	12	1.33	3	0.60	4	0.67	1	0.25	24	0.57	2
(73) 急性出血性結膜炎		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	0	0.00	
(74) 流行性角結膜炎		0.00		0.00	1	0.50	1	1.00		0.00		0.00	2	0.18	2

	定点数			
	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) 青森保健所管内2人、五所川原保健所管内1人 (16年計 9人)
- (29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 上十三保健所管内 1人 (16年計 2人)
- (80) 細菌性髄膜炎(五類定点把握疾患) 青森保健所管内 1人 (16年計 2人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 6人 (16年計 77人)

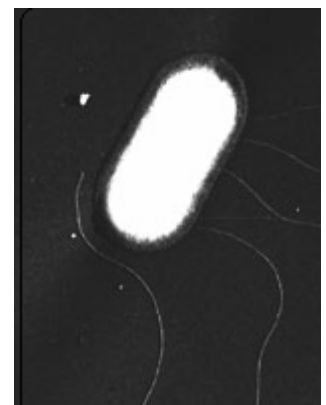
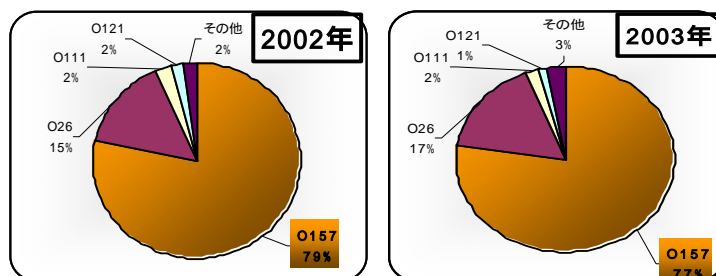
感染症の窓

腸管出血性大腸菌感染症

大腸菌の中でベロ毒素(志賀毒素)を産生する細菌を腸管出血性大腸菌と言います。Vero toxin-producing *E. coli* (VTEC)又はShiga toxin-producing *E. coli* (STEC), Enterohemorrhagic *E. coli* (EHEC)と呼ばれています。O抗原による血清型は、O157がもっとも多く、次いで多い血清型はO26とO111です。それ以外にも、O121、O128、O145などの血清型が報告されています。

少しの菌量でも発病するため、保育園、学校等では排便後や食事前の手洗い指導を徹底することが重要です。最近、牛などの動物に接触しての発生も報告されていることから動物などと接触した後は必ず手洗いをすることが必要です。また、肉などの調理前後の手洗い、調理器具の洗浄消毒は必ず行い、肉などは十分に加熱(75℃以上)することが必要です。

血清型による分離状況 (全国)



腸管出血性大腸菌(O157:H7)の電子顕微鏡写真(15,000倍)